

情報・IT系職業実践専門課程における 専修学校の質保証・向上の推進事業の取組み と自己点検・第三者評価の実施事例

2016年1月25日
情報科学専門学校

目次

- 1. 文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業の取組み状況**
- 2. 自己点検と第三者評価の実施事例**

第三者評価基準検討にあたっての観点

第三者評価基準の検討にあたり、文科省より第1回連絡調整会議にて示された以下の観点のうち、特に「(3)学修成果等」の評価基準の検討を重視

(1) 設置基準等

専修学校設置基準等に適合していることを認定します。

- ・ 教員資格、教員数
- ・ 授業時数
- ・ 校地校舎の面積、設備

(2) 職業実践専門課程認定要件

職業実践専門課程の各認定要件に適合していることを認定します。

- ・ 教育課程編成委員会等の委員構成、開催回数、教育課程の編成内容
- ・ 企業等と連携した実習・演習等の実施
- ・ 企業等と連携した学校関係者評価の実施・公表
- ・ ホームページにおける情報提供

重視

(3) 学修成果等

認定課程が目的・目標に設定している学修成果等が達成できているかどうかを評価します。

- ・ 職業実践専門課程認定要件に係る教育内容等
職業実践専門課程の各認定要件に係る学校の教育内容等(教員組織、教育課程、施設及び設備等)が、目的・目的達成のために適切に機能しているか
- ・ 上記以外の教育内容等
教育課程や教育施設・設備等が目的・目標達成のために適切なものか。等

(4) 内部質保証

機関内部の質保証の取組や手続きを整備し、それが機能しているかを評価します。

「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

事業のゴール

- 情報・IT系職業実践専門課程に適した第三者評価の評価基準とその手順書を整備する

現在までの状況

- 文部科学省生涯学習政策局発行の「専修学校における学校評価ガイドライン」を基準とする
- 学修成果の部分において、情報・IT分野として独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が定めた人材育成体系CCSF(共通キャリア・スキルフレームワーク)を活用し、現在の教育内容との合致状況を検証
- さらに学習サービスの国際標準であるISO29990を活用し、質保証の評価基準として客観性を持たせる
- 改訂版に対して自己点検と第三者評価を試行

分野別評価と機関別評価

当該分野に特有の教育活動・学修成果の評価

分野別評価

+

学校の教育活動全体の評価

機関別評価

【情報・IT分野の例】

- 情報・IT系専門学校(職業実践専門課程)で目指している人材育成が適切に行われているか
- 例えばCCSFを活用して当該学科コースの評価基準を作成
- 専修学校における学校評価ガイドラインが基準
- 「国際通用性を確保した職業教育」の評価として国際標準ISO29990も活用

分野別評価) CCSFの構造

人材像／職種の数:35
専門分野の数:70

タスクモデル				スキルモデル				人材モデル												
タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	タスク内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13				
事業戦略>事業戦略策定	要求(構想)の確認	経営要求の確認	企業目標、中長期構想など経営レベルの要求を正確に捉えることができる				1	1	1	1										
		業務環境調査・分析(経営環境)	企業の内外環境を正確に捉え、全社戦略指針を提案できる				1	1	1	1										
		課題の抽出	収集した情報から現状のリソース(ヒト、モノ、カネ、情報)に関する課題の抽出ができる				1	1	1	1										
	新ビジネスモデルへの提言	業界動向の調査・分析	事業戦略に適用できるITの利用方法を適切に分析・抽出することができる								1	1								
		ビジネスモデル策定への助言	ビジネスモデル立案に対して事業戦略とリソース(ヒト、モノ、カネ、情報)配分を提案、評価できる								1	1								
	事業戦略の実現シナリオへの提言	実現可能性の確認	ビジネスモデルとリソース(ヒト、モノ、カネ、情報)の観点から、実現可能性を評価できる								1	1								
全社戦略の展開における活動・成果指標の設定		事業戦略展開における成果指標、活動指標を設定することができる								1	1									
課題・リスクの洗い出し 超概算予算の算出		事業戦略展開における課題の整理ができ、事業戦略実現のためのプロジェクトの概算予算を算出できる								1	1									
事業戦略>IT事業戦略策定	市場動向の予測・分析	市場機会の見極めと選択	予め決められた時間と予算の中でマクロ環境情報(人口統計、経済、政治、技術など)やミクロ環境情報(自社、競合、顧客、協力者)を収集することができる	1	1	1				1	1									
			収集した情報に基づき、分析ツールやモデルを活用して、市場での自社のポジショニングを分析することができる	1	1	1				1	1									
			業界(市場)の環境がマクロ環境情報(人口統計、経済、政治、技術など)でどのように変化していくかを示すことができる	1	1	1				1	1									
	顧客動向の分析	顧客が属する業界やについて、新聞、雑誌等の各種媒体から情報を収集し、分析することができる	1	1	1				1	1										
ターゲット市場のビジネスモデル分析	業種・業態、規模、企業形態、地域などの観点からターゲット市場を具体化することができる	1	1	1				1	1											

3スキル標準のタスクを3階層整理した 網羅的な体系
 タスクに紐づくかたちで、スキルを整理
 タスク小分類(548項目)に紐づくスキル1281項目

分野別評価) 本学で目指す職種

学科	コース	取得可能な資格	目指す職種
情報セキュリティ学科 (4年制) <small>高度専門士の称号・大学院入学資格付与</small>	ITスペシャリストコース	情報セキュリティスペシャリスト試験 (国家資格) 応用情報技術者試験 (国家資格) 基本情報技術者試験 (国家資格) ITパスポート試験 (国家資格)	Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) UMLモデリング技能認定試験 個人情報保護士認定試験 GAIT 等
	サイバースペシャリストコース	Cisco Certified Network Associate (CCNA) Systems Security Certified Practitioner (SSCP)	
先端ITシステム科 (3年制)	ネットワーク・インフラコース	システムアーキテクト試験 (国家資格) ネットワークスペシャリスト試験 (国家資格) 応用情報技術者試験 (国家資格) 基本情報技術者試験 (国家資格) ITパスポート試験 (国家資格)	Cisco Certified Network Associate (CCNA) Linux技術者認定試験 (LPIC) Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) .com Master GAIT 等
	ビッグデータコース	Cisco Certified Network Professional (CCNP)	
情報処理科 (2年制)	ゲームプログラミングコース	応用情報技術者試験 (国家資格) 基本情報技術者試験 (国家資格) ITパスポート試験 (国家資格)	プロジェクトリーダー システムエンジニア ネットワークエンジニア カスタマエンジニア プログラマ パソコン事務 等
	スマホアプリコース	Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) UMLモデリング技能認定試験 MCPCモバイルシステム技術検定試験	
	システム開発コース	MCPCスマートフォン・ケータイ実務検定試験 Android技術者認定試験 C言語プログラミング能力認定試験	
	IT活用コース	Accessビジネスデータベース技能認定試験 GAIT Microsoft Office Specialist (MOS) 等	
情報工学科 (2年制)	組込みシステムコース	エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (国家資格) 応用情報技術者試験 (国家資格) 基本情報技術者試験 (国家資格) JASA組込みソフトウェア技術者試験	Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) MCPCモバイルシステム技術検定試験 GAIT 等
	制御・ロボットコース	ロボット技術検定 MATLABトレーニング修了認定	
Web技術科 (2年制)	Webデザイナーコース	応用情報技術者試験 (国家資格) 基本情報技術者試験 (国家資格) ITパスポート試験 (国家資格) ウェブデザイン技能検定 (国家資格) 初級ウェブ解析士 Webクリエイター能力認定試験	ネットショップ検定 MCPCスマートフォン・ケータイ実務検定試験 MCPCモバイルシステム技術検定試験 色彩検定 Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) GAIT Microsoft Office Specialist (MOS) 等
	Webアプリコース	Illustratorクリエイター能力認定試験 Photoshopクリエイター能力認定試験	
ITライセンス科 (1年制 大学・短大・専門学校卒業生、社会人対象)		基本情報技術者試験 (国家資格) Linux技術者認定試験 (LPIC) Microsoft Certified Professional (MCP) Oracle Certified Java Programmer (OCJ-P) 日商簿記検定	秘書技能検定 ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) GAIT Microsoft Office Specialist (MOS) 等
			システムエンジニア 一般事務 プログラマ 経理事務 ネットワークエンジニア 営業 Webエンジニア 販売 等

分野別評価) 既存カリキュラムとの整合確認

■評価対象の学科でカバーしているタスク・スキルの整理

分類	①項目数	②情報処理科で 習得可能な項目数	③カバー率 (②÷①)	備考
タスク大分類	4	3	75%	「新ビジネス・新技術に関する研究・検証と支援」が未対応
タスク中分類	17	16	94%	「再利用施策管理プロセス」が未対応
タスク小分類	49	42	86%	「移行計画」および「再利用施策管理プロセス」に関する項目が未対応
スキル項目	161	146	91%	同上

■成果と課題

- CCSFで定義されている「アプリケーションスペシャリスト」を育成する人材像として設定し、評価対象とする学科(情報処理科)のカリキュラムにおいて、その人材像で求められるスキルをどの水準まで習得可能かを明確にすることができた
- CCSFで定義されている「アプリケーションスペシャリスト」で求められるスキル項目のうち、「移行計画」に関するスキル項目(9項目)と「再利用施策管理プロセス」に関するスキル項目(6項目)が、現在のカリキュラムには含まれておらず、次年度のカリキュラム検討の際の課題として明確にすることができた
- CCSFの改訂(2014年7月にiコンピテンシ・ディクショナリに改訂)やスキル項目の改訂に合わせて、同様な手法でPDCAサイクルをまわすことで、時勢に即したカリキュラムを構築していくことができる

機関別評価) 国際標準の調査

ISO29990とは

■ 名称

非公式教育・訓練*における学習サービス サービス事業者向け基本的要求事項

非公式教育訓練機関: 学習塾、予備校、専修学校、職業訓練機関等

■ 規格の目的

学修サービスの計画、開発、提供に関する共通の基準と専門的な教育訓練プログラム実施のための包括的な質保証のモデルを事業者に提供すること

■ 規格発行日

2010年9月1日

機関別評価) 自己点検・評価表の改訂(1/3)

■自己評価表(例)の項目(63項目)

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流(必要に応じて)



ISO29990を参照し、国際通用性を持たせた項目に改訂

※文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」より

項目別の自己評価表(例)イメージ(専門学校) 別添3

※以下は例示に過ぎないものであり、各学校の教育目標・重点目標等を達成するために必要な項目・指標等を設定することが重要。
 ※また、1(不適切)~4(適切)の評価のみでなく、課題を確認し、今後の改善方策については次年度以降の取組への活用を具体的に記述することが望まれる。また、特記事項についても、自校の特色となるような取組について記載することが望まれる。

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4	3	2	1

 ① 課題
 { }
 ② 今後の改善方策
 { }
 ③ 特記事項
 { }

機関別評価) 自己点検・評価表の改訂(2/3)

■ 自己点検・評価表に反映した主なISO29990の項目

3.1.2: 利害関係者のニーズの把握

3.3.1: 情報提供及びオリエンテーションの実施

3.3.2: 学習のための人的・物的資源の利用可能性の確保

3.5.1: 評価の目標及び範囲の明示

3.5.3: 学習サービスの評価の実施

4.6.1: 学習サービス事業者のスタッフ及び協力者のコンピテンシーの明示

4.6.2: 学習サービス事業者のコンピテンシー、パフォーマンス管理、専門能力開発に対する評価

4.9 : 内部監査の実施

(備考)

- 3.3.1(情報提供及びオリエンテーションの実施)と3.3.2(学習のための人的・物的資源の利用可能性の確保)の2項目については、できていることが当然であるためにチェック項目として挙げられていなかったものと推察された。しかしながら、「グローバル化への対応」と考えれば、こうした「日本国内で学校と呼ばれている組織であればできている」という項目についても、「できている」ということを外部に伝える(情報を公開する)ことが必要となると判断し追加を行った。

機関別評価) 自己点検・評価表の改訂(3/3)

■改訂した自己点検・評価表(91項目)

自己点検・評価表(ISO 29990 対応版 Ver. 2.0)

実施日: 平成 年 月 日
学校名: _____

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1	エビデンス(文書番号)
1	1 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1	
1	2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4 3 2 1	
1	3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 3 2 1	
1	4 学校における職業教育の特色は明確になっているか	4 3 2 1	
1	5 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 3 2 1	

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

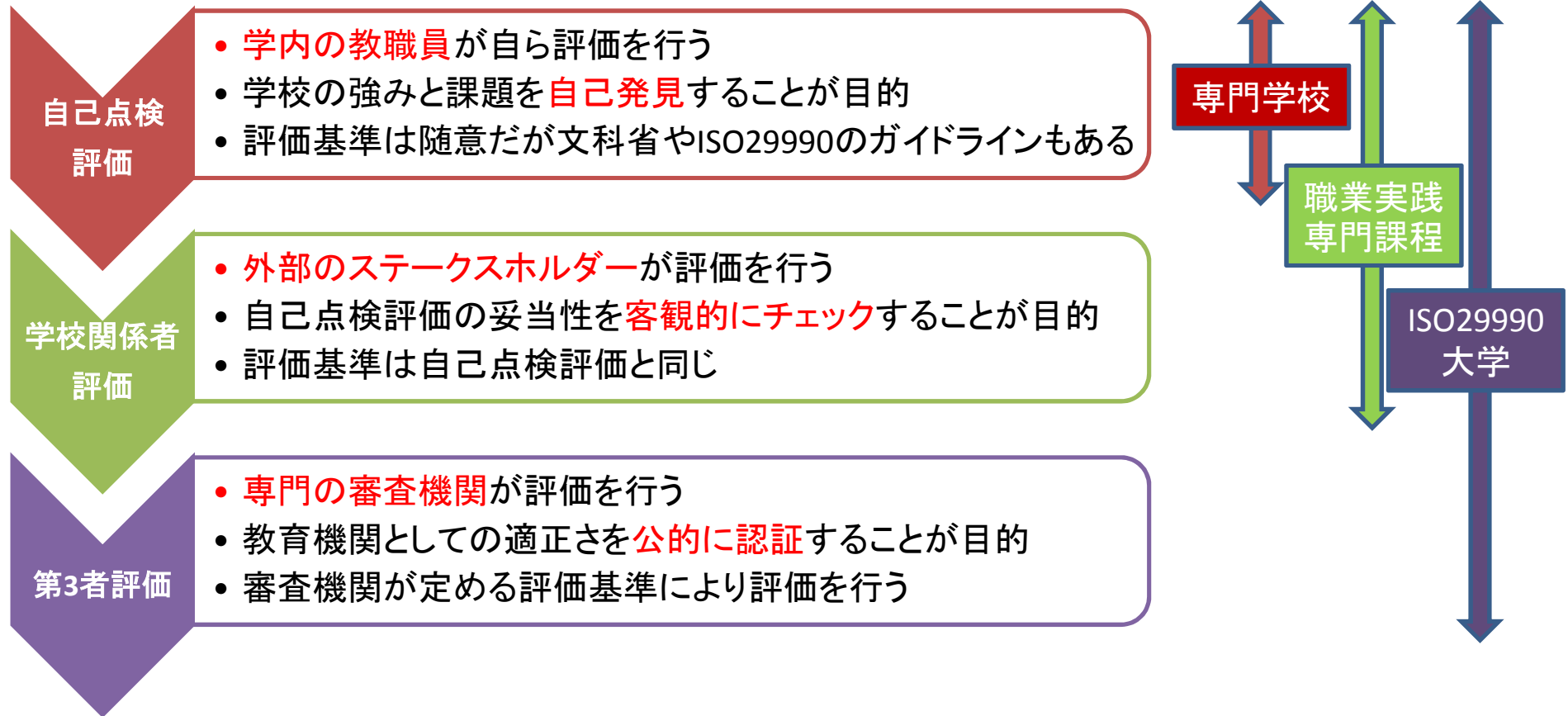
4 学修成果		適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1	エビデンス(文書番号)
4	1 学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4 3 2 1	
4	2 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1	
4	3 評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか	4 3 2 1	
4	4 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4 3 2 1	
4	5 成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか	4 3 2 1	
4	6 ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか	4 3 2 1	
4	7 学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか	4 3 2 1	
4	8 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 2 1	

5 学生支援		適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1	エビデンス(文書番号)
5	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	
5	2 学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1	
5	3 保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1	
5	4 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 2 1	
5	5 卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1	
5	6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4 3 2 1	
5	7 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	
5	8 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1	
5	9 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	
5	10 学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1	
5	11 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 2 1	

目次

1. 文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業の取組み状況
2. **自己点検と第三者評価の実施事例**

評価の種類と目的・評価基準



自己点検評価

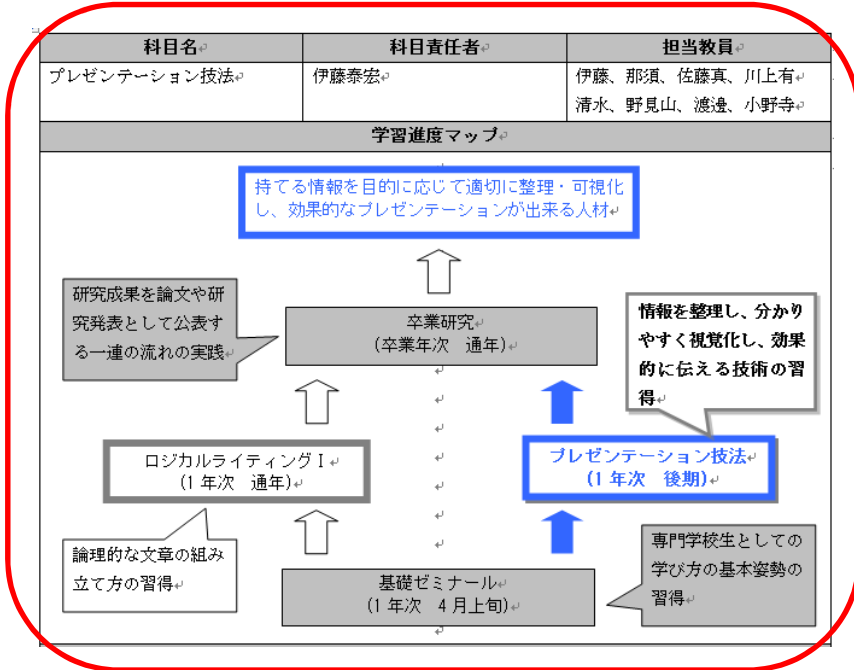
- 当校では前述のISO29990を基に文科省ガイドラインを改定した自己点検評価報告書を使用（その後の学校関係者評価、職業実践専門課程申請、第3者評価受審がスムーズになるため）
- 自己点検評価の責任者を任命し実施。責任者は適宜担当者
の意見を求め、評価を実施する
- エビデンス（評価結果を裏付ける資料）は新たに作るのではなく、
現存する資料を充当する

自己点検評価例

基準を完全に満たしているため4(適切)

4. 学修成果

4	1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	④	3	2	1	・「学生生活の手引き」のp.41「学科学習目標」 ・学習支援システムの学習ガイド
---	---	--	---	---	---	---	---



育成する人材像

評価項目

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> 相手の興味・関心に合わせて話を組み立てる技術を習得すること 情報を相手にとって分かりやすく見せる技術を習得すること
教科書および参考書
オリジナル教材 (プリントおよびPDF)
評価基準
以下の評価項目に基づき、4段階評価を行います。 <ol style="list-style-type: none"> 単位認定試験(70%) 最終課題として、実際にプレゼンテーションを行ってもらい、それを課題試験として評価します。(本講座で学んだ知識や技術の理解の度合いとその知識や技術の実践力を評価します。) 試験は12月10日、17日の2日間で実施 公欠者の追試験は12月18日に実施予定です。 平常点(30%) 出席状況、授業態度(授業への積極的な参加、例えば講義を理解しようとする姿勢、授業内容に関する質問の有無、課題の制作意欲、グループワークでの貢献度等)、課題の提出状況により評価します。

明確な基準

自己点検評価例

在校生は把握できているが、卒業生は不十分なので2(やや不適切)

4	2	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②+	1	・在校生については、学習支援システムのパーソナルストーリーレポート(活動履歴)に記載
---	---	----------------------------	---	---	----	---	--

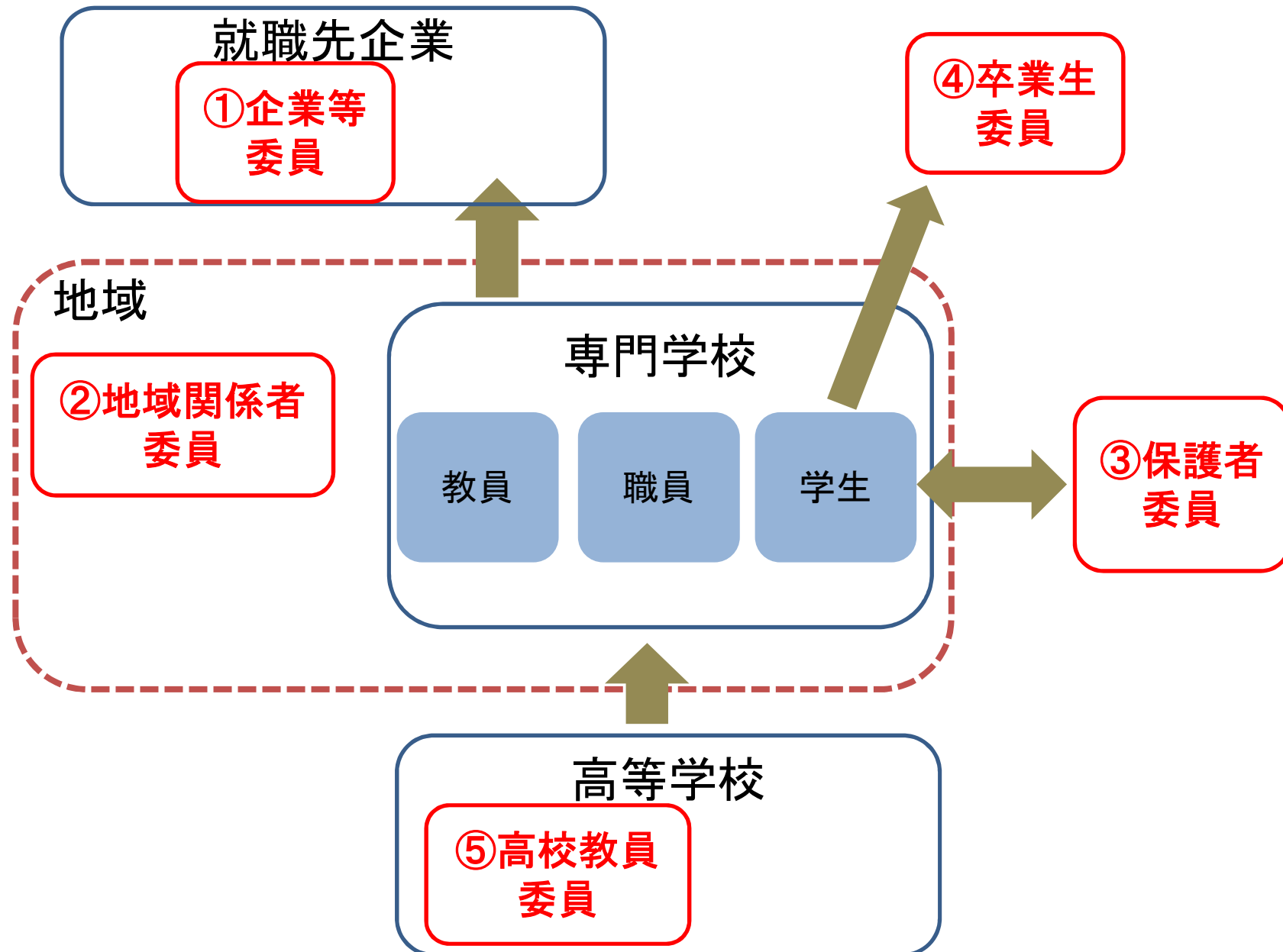
活動期間	種別	内容(下段:得られたこと)
2000/04~2012/04	課外活動・自己研鑽	ピアノを幼稚園の年中から高校2年の発表会まで。発表会の数は6回。
2006/09~2014/01	課外活動・自己研鑽	ボーイスカウト、横浜27団に所属。主に休日に活動。活動内容は救急法、プロジェクト企画、司会、旗揚げ、火起こし、ロープワークetc
2009/04~2011/01	学内活動	聖園女学院のバドミントン部に所属。役職、大会履歴などは無し。
2012/01~2014/01	資格・免許	赤十字救急法救急員、3日間の講習を受けたのち、試験を受けて合格。(合格)
2014/06~2014/01	資格・免許	J検 1級・3級(6月受験・7月合格発表)(合格)
2014/07~2014/01	資格・免許	ITパスポート 合格(合格)
2014/11~2014/01	資格・免許	基本情報技術者試験 合格(10月受験 11月合格発表)(合格)

在校生の社会的な活躍および評価

自己点検評価（エビデンスの例）

4 学修成果		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	エビデンス（文書番号）
4	1	④ 3 2 1	・「学生生活の手引き」のp.41「学科目標」 ・学習支援システムの学習ガイド
4	2	4 3 ② 1	・在校生については、学習支援システムのパーソナルストーリーレポート（活動履歴）に記載
4	3	④ 3 2 1	学習支援システムの学習ガイド（達成目標、評価基準が記載）
4	4	4 ③ 2 1	・平成26年度第2回教育課程編成委員会議事録 ・人事考課表
4	5	④ 3 2 1	・成績証明書（学校長名で発行） ・卒業証書（専門士の認定）
4	6	④ 3 2 1	・平成26年度第1回教育課程編成委員会議事録 ・平成27年4月16日 部長会議資料（平成26年度総括の2.平成26年度重点項目と達成状況）
4	7	④ 3 2 1	・連携講座に関する契約書 ・学習支援システムの学習ガイド
4	8	4 ③ 2 1	就職対策強化合宿実施要領、卒業生アンケート

学校関係者評価委員の構成



学校関係者評価

- **職業実践専門課程における学校関係者評価は自己点検評価とヒモづいていることが必要**
- **委員の属性を踏まえてヒアリングすれば (EX: 「卒業生への支援体制を卒業生委員」、「保護者との連携を保護者委員」、「地域貢献を地域代表委員」など) 自己点検の項目を網羅しやすい**

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> • 学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか • 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか • 評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか • 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか • 成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか • ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか • 学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか • 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> • 在校生の活動については学内活動・課外活動を含めて学習支援システム(学内支援システム)に登録されており確実に把握できている。一方で、卒業生の活躍状況を定期的に把握する仕組みは構築されていない。 • 1984年以降の卒業生名簿を整備中。 • 卒業生同士の交流および学校と卒業生の関係強化を目的として、「卒業生交流会」を学園祭当日に開催予定。 • 今年度より、学生の就職先企業宛てに当校で学習したことが実務で活かされているかどうか本人および直属の上司に確認する「就職先アンケート」を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> • これまでは学校側からの連絡が無かったので、卒業生と学校の関係は疎遠になりがちだったが、実際には学校と関係を持ちたいと思っている卒業生は多いと思う。 • 80年代、90年代ごろの卒業生は今のように携帯電話やメールも普及していなかったため、お互いに音信不通になりがちである。学校が音頭をとって、卒業生交流会のような活動を実施すれば、歓迎されると思う。今後も継続して実施してほしい。 • 社会で働く卒業生の声を学生に聞かせる機会があっても良いのでは。学生の今後の活動にもプラスになると思う。

第3者評価 (ISO29990審査) の流れ

事前準備

- ISO29990基準書を入手
- 必要に応じてセミナー等受講
- 自己点検評価で提示したエビデンスを揃える

書類審査

- 現地審査のおよそ1か月前に自己点検評価およびエビデンスを審査機関に送付
- 審査機関の求めに応じ、追加のエビデンスを実施

現地審査

- ISO29990基準書とエビデンスを突き合わせ基準書の1項目ごと適合・不適合・オブザベーションを判定
- 理事長・校長への代表者インタビュー、授業観察、教職員ヒアリング実施

改善

- 審査機関からの改善要望事項説明書に基づき、不適合・オブザベーション項目の改善活動実施
- 是正報告書を提出

ご清聴ありがとうございました